

救命救急研修 もしも食べ物が詰まったら…!?



4月3日・7日の両日、新座消防署片山分署救急隊員3名に来ていただき、『異物除去の方法』について教えていただきました。お正月になると高齢者が、おもちを喉に詰まらせて救急車で運ばれるというニュースを耳にしますが、実際に食べ物を喉に詰まらせた時にどのように対処したら良いのか、学ぶことができました。

まず高齢者が喉に詰まらせやすい食べ物について説明がありました。「1位おもち・2位ご飯・3位うどん、白い炭水化物が危険」という話を聴き、スタッフからは「ご飯は意外だった」という声が多く聞かれました。異物除去の方法には大きく分けて2つあり、腹部突き上げ法(ハイムリック法)と背部叩打法があります。

～腹部突き上げ法～ 患者の後ろに回り、ウエストに両手を回します。拳をにぎりみぞおちの下(へその上)に当て、手前に引き上げるように圧迫して突き上げます(胃から食道へ圧をかけるイメージ)。妊婦や乳児には行わず、立ったまま行うのが効果的なので高齢者にもあまり適していない方法です。

～背部叩打法～ 患者を前かがみにして、左右の肩甲骨の間を手のひらで下から上に突き上げるように叩きます。スタッフは実際に人の体や人形を使って、2つの方法を実践しました。

スタッフ全員利用者さんが食事中におせたり詰まりそうになったりした経験があるので、たいへん貴重な体験になりました。これからはものごとが起きた時の対応に自信が持てました。

最後に救急隊員から一番大切なことは予防で、食べ物を詰まらせないように小さくしたり、トロミをつけたり食事を工夫することとの話がありました。

高齢になると食べ物を飲み込む力も弱くなってしまいますので、利用者一人ひとりの状態に合わせた食事形態を考えて提供し、予防に努めたいと思います。

いつ出動命令が来るかわからない忙しい中、えんに駆けつけて下さった救急隊の皆さんに感謝申し上げます。有難うございました。

(グループホームえん/立川栄侍)

